

☆☆☆製品ニュース☆☆☆
愛称 **ビューレスタ** 発売

誘導雷検出避雷器

UV-2シリーズ

誘導雷を検出・表示する避雷器

特許出願中

■用途

本器は雷の放電によって信号ラインに現れる誘導雷サージ電圧を吸収し、接続されている機器を保護する屋内設置用避雷器です。

■特長

- 発生した誘導雷を検出し、正面の表示を黒から赤に変化させ避雷器が動作した事を知らせ、検出後は表示を赤のまま保持。
- 避雷器の動作結果が見える為、アレスタの交換時期が解る。
- 電源不要タイプ。
- 端子に直接取り付け、省スペースで配線工数も削減。
- サージ吸収にバリスタを使用している為急峻なサージに対し優れた応答。



■性能および共通仕様

放電開始電圧	線間	DC 130V以上
	接地間	DC 65V以上
制限電圧	線間	500V以下(1000A時)
	接地間	250V以下(1000A時)
応答時間		0.1 μs以下
放電耐量		1000A(8×20 μs) (IMAX=250%A 2回)
漏れ電流	線間	60 μA以下(DC 130Vにて)
	接地間	60 μA以下(DC 65Vにて)
最大線間電圧		DC 130V以下
誘導雷検出レベル		検出電圧1000~2000V (1.2×50 μs) 1回 検出電流200A 1回
使用温湿度範囲		-10~55°C, 5~90% RH
保存温度範囲		-40~70°C
外観色		マンセルN1.5(黒色)
質量		20g

■注意事項

- 配線作業時に着磁されたドライバー等を使用する場合、表示が多少動くことがあります。強い磁気を帯びた物を接近させると、表示が変わる可能性があります。
- 本器を組み込んだパネルの耐電圧試験を行いますと本器の放電素子が放電を起こし耐電圧不良となりますので、耐電圧試験を行う場合は本器を外した状態で実施して下さい。

■関連機器

誘導雷検出避雷器試験装置 形名 UV-2CH
・避雷器の寿命診断機能
・検出表示のリセット機能

■仕様コード

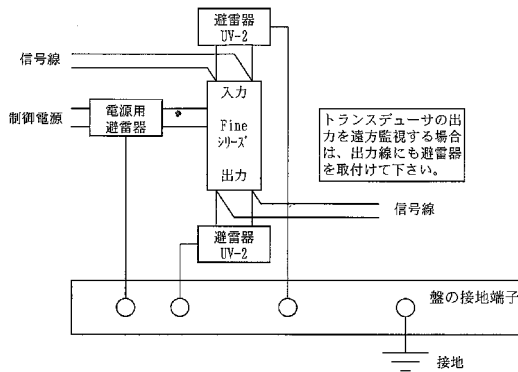
シリーズ名→UV-2-
形名
仕様コード

スイッチ付多連ベース FWBA にご使用の際は
形名:UV-2-1E1-1111 をご選定ください。

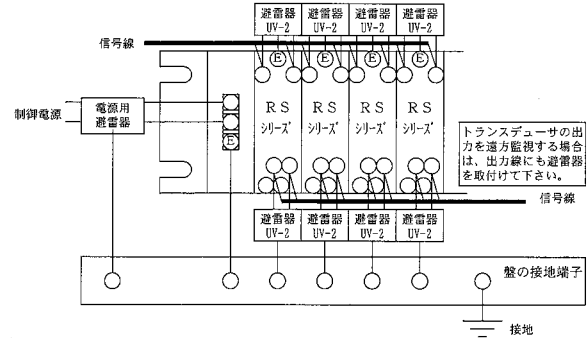
シリーズ名	①制限電圧	②取付対応機種	③保護回路	④アースリード線長さ	⑤アースリード端末処理	⑥端子金具取付穴形状
UV-2	1:250V	E1: 小形プラグイン Fine シリーズ 1出力タイプ	1:入力回路保護 2:出力回路保護	1:40mm(標準) 2:0.5m 3:1.0m	1:圧着端子付き 使用圧着端子 メーカー:日本端子(株) 形名:VDAV-1.25-4	1:U形状
		E2: 小形プラグイン Fine シリーズ 2出力タイプ	1:入力回路保護		2:圧着端子無し	2:○穴形状 近日発売予定
		FL: ラック収納形 RS シリーズ	1:入力回路保護 2:出力回路保護	Z:ご指定による		 1

■使用例

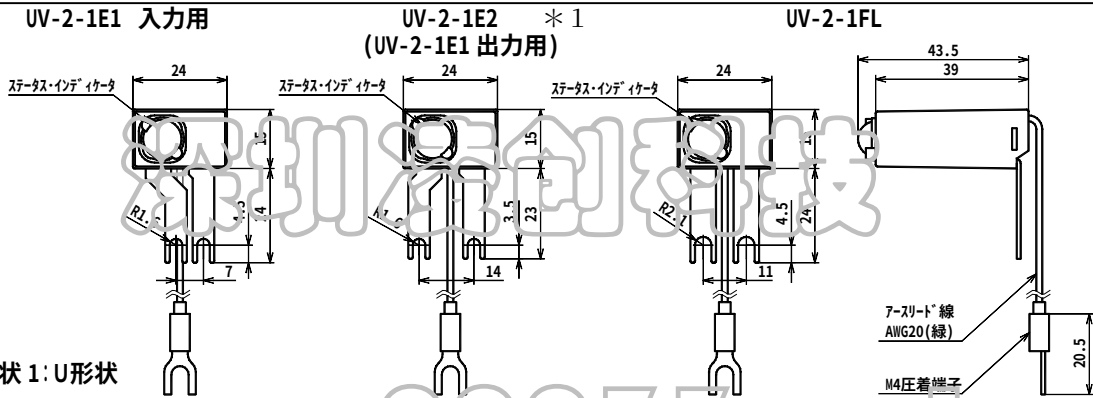
- 小形プラグイン Fine シリーズはトランスデューサ本体にアース端子が無い為、避雷器のアース線は配電盤の接地端子に最短で接続してご使用ください。



- ラック収納型トランスデューサ
入力側は、各ユニットの接地端子(E)に避雷器のアース線を接続して下さい。出力側に取付ける場合は、下図の様に配電盤の接地端子に、最短で接続して下さい。この場合、電源ユニットの接地端子(E)と同じ接地端子に接続して下さい。



■外形図

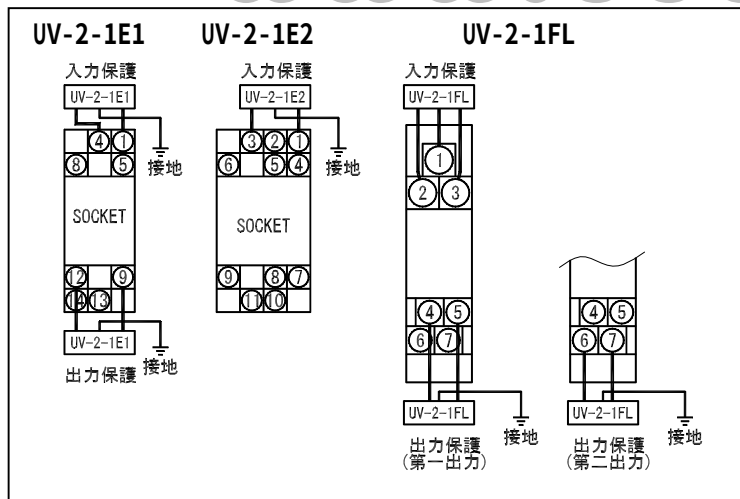


図は端子金具形状 1: U形状

アースリード"端末処理 1: 圧着端子付

* 1 UV-2-1E1 は入力用と出力用では接続金具の形状が異なります。

■結線図



■取付対応機種一覧

対応機種	形名	避雷器形名	入力用	出力用
小形プラグイン トランスデューサ	FSTT	UV-2-1E1	○	○
	FSHS		○	○
	FSUS		○	○
	FSDT		○	○
	FWTT	UV-2-1E2	○	×
	FWHS		○	×
	FWUS		○	×
ラック収納形 トランスデューサ	FWDT	UV-2-1FL	○	×
	TRS-11F		○	○
	TRS-12F		○	○※1
	TRS-13F		○	○
	TRS-14F		○	×
	DRS-11F		○	○
	DRS-12F		○	○※1
	DRS-13F		○	○
	DRS-14F		○	×

※1: ラック収納形トランスデューサの2出力タイプは第1出力または第2出力のどちらか片方にのみ取り付け可能です。

⚠ 安全に関するご注意



注意

- 本製品を使用するに当たりましては、専門知識が必要です。取扱説明書を参照の上、正しい取扱をしてください。
- 結線は結線図を十分に確認の上、行って下さい。
- 活線作業は、禁止して下さい。感電・機械の故障・焼損・火災の原因となります。